

# 大和市 つどいの広場事業

## こども～る鶴間通信【No.197】



Insta

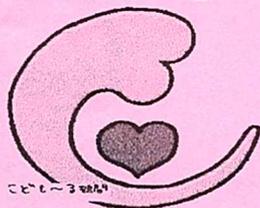
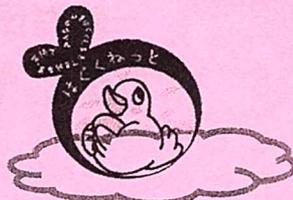


Mail



URL

2024.2.1 こども～る鶴間発行



こども～る鶴間

《運営》

認定NPO法人

地域家族しんちゃんハウス

- ☆子育て親子の交流つどいの広場の提供
- ☆子育てに関する相談・援助
- ☆地域の子育て関連情報の提供
- ☆講習会

利用対象者

★乳幼児：0～3歳児(誕生日から最初の3/31まで)と親(保護者)

★妊婦さん

《お問い合わせ》

電話：090-3685-2288(こども～るフォン)

場所：イオンモール大和4F(ライトコート側)

### 2月の予定

日		月		火		水		木		金		土								
前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半							
☆こども～る鶴間のライトはなぜ暗くしてあるかご存じですか？ 赤ちゃんの脳活動に最適にしてあるからです。大人は明るいのが良いかもしれませんが、赤ちゃんは違います。光の刺激が強かったり多かったりすると興奮してしまうのです。								保・保												
								1		2		3								
保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保							
4	5	6	7	8	9	10														
	遊び	育 B(14:05～16:05)																		
保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保							
11	12	13	14	15	16	17														
建国記念日	祝(振替)		育																	
保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保							
18	19	20	21	22	23	24														
	助産師による おっぱい教室 (14:00～15:00) 育	よみ			天皇誕生日															
保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保	保・保							
25	26	27	28	29	栄: 栄養士 助: 助産師 看: 看護師 子: 子育てアドバイザー 経: 子育て経験者 保: 保育士															

<p>保健師による育児相談 A(13:35～16:35) B(14:00～16:00)</p>	<p>助産師によるおっぱい教室 (14:00～15:00)</p>	<p>保育士による育児相談 (13:35～16:25)</p>
<p>発育相談 (14:00～17:45)</p>	<p>保育士/ボランティアによる手遊び (10:30～11:00)</p>	<p>絵本読み聞かせ a(10:30～10:45) b(14:30～14:45)</p>

### 時間表

① 10:15～11:45	② 11:55～13:25
③ 13:35～15:05	④ 15:15～16:25
⑤ 16:35～17:45	

人数の制限もありません♪  
(状況により制限の場合もあります)

世の中に子育てほど尊い仕事はありません。私達の未来を創る事であり、未来の幸せを可能にする仕事だから。

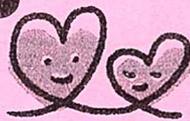


# 『すこやかさゆたかさの未来研究所』代表・畠中氏講話

ALS とは全身の筋肉が徐々に動かせなくなり、最終的に死に至る病。発症のメカニズムが解明されておらず、治療法も確立していないため、現在は麻痺の進行を遅らせる対処療法しかない難病です。ALS 発症から財団を設立するまでの経緯や財団設立から現在に至るまでの活動や取り組みについて、畠中氏の想いやまわりの方々のサポートについてじっくりお話しいただきました。

## ●余命宣きから湧き上がるミッション●

第一線の経営コンサルタントとして多忙な日々を送るなか、左足のふくらはぎに異変を感じ、家族の勧めで病院へ行ったところ、ALSと診断される。「余命は3～4年と覚悟してください」と医師に告げられた後、様々な葛藤と自身の体験をもとに、まずは混乱と絶望の中にあるALSの患者、そしてその家族に手を差し伸べて一緒に様々な困難を乗り越えていこう、という切実な思いを込めて活動をスタートさせる。「何かしたい」と色々な人に相談していくうち、欧米人の知り合いが「財団を作りなさい」と提案してくれたことがきっかけで、発案からわずか1年の間に財団設立。



### 講師紹介

はたなか

畠中 一郎 氏



2021年8月、難病のALS(筋萎縮性側索硬化症)を発症し、その1年後にすべての人の健康と豊かさを追求する財団を設立、代表理事。1958年鹿児島生まれ。大学卒業後、JETRO(日本貿易振興機構)に勤め、海外に駐在。退職後、ハーバードビジネススクールに自費留学し、MBA(経営学修士)を取得。帰国後に野村総研やアクセンチュアなどでコンサルタントとして新規事業・市場開拓やM&A、事業再生に従事。2006年からは独立し、経営コンサルタントとして国内外の企業経営に携わる。財団の詳しい活動などはポータルサイトから

すこやかさ ゆたかさの未来研究所 検索

## ●財団活動の三つの柱、それぞれを目的に活動を考え構成していく●

### 1. 寄り添う

患者やその家族を孤立させない、いつでもつながっているという希望を感じて欲しい。年間1,000人くらいがALSの診断を受ける、その人たちに向けて仲間がいるよというメッセージを発信する。

### 2. 支える

低下した身体的機能を少しでも回復させ、活動できることの希望を感じることでできる器具やサービスを紹介すること。さらに患者・家族の声を医療現場へフィードバック、また介護保険制度の拡充などを求め政策提言。その為に国会議員の方に直接会って話をしたり、具体的に必要なアプローチを日々試みる。

### 3. 乗り越える

絶望は自分で作り出しているもので、だからこそ希望も自分自身で創り上げていくもの。人から与えられる希望もあるが、それは時としてがっかりさせられることも。だからこそ自分の中から湧き上がる希望こそが一番信頼できる輝きで、それに気がついた時、人生のモードが変わっていく。新たな人生の意義を希望とともに創り上げていくお手伝いをしたい。

## ●財団の取り組みや思いを伝えることで支援の輪は更に広がる●

財団の活動は難病患者に限らず、様々な苦難を抱える人たち、さらに高齢化社会が抱える色々な問題の解決につながるヒントとなる。病気や老化によって身体的機能低下に陥った人たちとその家族に寄り添ったり、

すこやかでゆたかな生きがいを取り戻すための希望になることは、歳を重ねるにつれてとても切実な問題だ。活動の様子はポータルサイトやSNSを通じて日々報告されている。それに一人でも多くの人に興味を持ったり共感した時、自分も何かしてみたいと思った時が、この活動がさらに大きく展開していくきっかけに繋がる。

→財団のX(旧ツイッター)はこちらから

